

テーマ **「丹羽治療法のすべて**

「全国から四国土佐清水病院に押し寄せるアトピー・ガン患者」

講師 **丹羽耕三** 先生 医療法人修命会土佐清水病院院長／京都大学医学博士／丹羽免疫研究所長。

1932 年生。京都大学卒業。土佐清水病院院長ほか全国11ヶ所の診療所

にて出張・診療指導。約200名の医師達が丹羽療法研究会に入会10年

程前から副作用のない天然生薬の活性化製法を開発、現在全国で1000人以上の進行末期ガン患者数100人の重症膠原病患者、更にリウマチ、喘息、重症のアトピー性皮膚炎の患者さんを治療、絶大なる効果をあげている。

【主な著書】「医は仁術なりー丹羽療法への遙かな旅路ー」（致知出版）、「白血病の息子が教えてくれた医者的心」（草思社）、「天然 SOD 製剤がガン治療に革命を起こす」（廣濟堂出版）、「クスリで病気は治らない 英語版」（パーソナルケア）、「水いのちと健康の科学」（ビジネス社）、「丹羽療法 全国のアトピー患者が信頼するこれだけの理由」（リヨン社）他多数。「ガン治療 究極の選択」（講談社プラスアルファ新書）ほか多数。

●増加しているがんの原因治療へ

私が医者になった40年以上前には、がん患者は非常に少なかった。ほとんどが60歳以上の老人で、老化イコールがん化でした。ところが1970年代を堺に大きく事情が変わります。この時期は、産業の発達で地球の環境汚染をどんどん悪化させていった時代です。その中でも代表的なのが、車の排気ガスに含まれる窒素酸化物やオゾン層を破壊するフロンガスです。オゾン層が破壊され、地球に降り注ぐ紫外線は昔と比べて何十倍もの量になりました。これらの窒素酸化物も紫外線も共に毒性の活性酸素を出し、これが細胞や骨髄、精子、その他の生体の細胞の核を突然変異させ、がん、重症膠原病、アトピーなどを増加、重症化させたのです。ですから、本日は、がんの一因である活性酸素に対して、それを体内で無毒化させる丹羽療法についてお話します。

●天然の生薬を活性化する

私は、息子を抗がん剤で苦しめながら死に至らした辛い経験から、漢方的なものを身体に効くようにする方法はないかと生薬の活性化方法を研究するにいたりました。そして天然の抗酸化剤の開発実験の過程で画期的な実験結果が得られ、人類は火の発見によって調理を覚え、食事として摂取した植物種子の中に含有されている抗酸化物質、抗腫瘍物質の重合、チー

ンを切断できなくなって、がん、膠原病、難病にかかるようになってしまったことを突き止めたのです。

● 医食同源を回復する

食事も薬も同じだから、天然の植物種子を食べていたら病気にならないという漢方医が言う医食同源は現在では通用しなくなっています。というのも、大半の人は唾液胃液が退化しているため、チェーンが切断できずに、病気にもかかるし、漢方を飲んでも効果がないのです。

人間だけが火を使うことを覚えてしまい、自然から与えられた、がんやその他の病気に効く植物種子のチェーンを切断して、これらを体内で有効なものとして活躍させることができなくなったので、現在のがん、膠原病、成人病が蔓延する時代になってしまったのです。

● 焙煎、発酵、油剤化で活性化

長年の研究から、天然の生薬、植物種子を経口摂取して体内で効くようにするには、この重合のチェーンを切断してやるのが大切であると分かったのです。そこで、高熱や化学物質で傷付けずにいかにしてチェーンを切断するかという加工法を実験を繰り返し完成させ、特許を取得したのです。その加工法やどのような生薬があるのかは、『がん治療「究極の選択」』（講談社+α新書）に詳しく解説していますから、興味がある方は是非読んでみてください。

● 副作用のないがん治療のきっかけは

私が医学部を出た51年前は、がん治療には抗がん剤しかなく、疑問を持ちながらも使用して、多くの患者さんがその副作用に苦しみながら、結局死んでいきました。その後、亡くなっていった何百人の進行がん、末期がん患者さんのカルテを調べてみたら、がんで直接亡くなられた患者さんはほとんどなくて、直接の死因は抗がん剤の副作用だったのです。進行がん、末期がんの場合、抗がん剤の副作用で苦しんで死ぬのは当たり前なのです。かつての私はこのことを当然のことだと思っておりました。ところが、私の二番目の息子が、当時もっとも可愛い盛り的小学2年生になったばかりの頃、急性骨髄性白血病にかかりました。その治療の過程で抗がん剤を使用しましたが、息子は苦しみながら抗がん剤の副作用で亡くなり、私は息子の苦しむ地獄絵を見続けました。私はこのときに、「ああ。これが現代西洋医学の全てで、限界なのだ。こんなことは人間のやるべきことではない。もう抗がん剤は、放射線は絶対にご免だ。」と痛感したのでした。

● 西洋医学のがん治療は「皆殺し療法」

実はがんを殺す薬などいくらでもあります。ただ、力関係で弱い方の人間の正常な細胞が、人間よりずっと強力ながん僧帽が殺されるよりも先に殺されてしまうだけのことなのです。このような化学療法、放射線療法を「皆殺し療法」(トータル・キリング)と呼びます。ですから、がんを叩き潰そうとして必死に投与した抗がん剤や放射線の副作用で多くの方が死んでいっているのです。これはどんな大病院に行っても同じなのです。

● 毒ガスから生まれた抗がん剤

ショッキングな話ですが、抗がん剤はもともと毒ガスの研究から生まれたのです。第二次世界大戦中にアメリカの化学兵器研究チームが、ナイトロジェン・マスタードという毒ガスの実験

をしている最中に偶然にもネズミの悪性腫瘍が縮小したことを発見したのです。今でも薬理学の教科書には、歴史的に開発された抗がん剤の筆頭に、この毒ガス「ナイトロジェン・マスタード」がはっきりと記載されていますし、現在に至っても「ナイトロミン」という薬名で、抗ガン剤として使用されています。

●抗がん剤で治る、治らないがん一覧

1. 抗がん剤で治療、長期延命のがん

小児の急性リンパ性白血病、精のうがん、肺の小細胞がんで限局性のもの、小児の急性骨髄性白血病、初期の悪性リンパ腫、慢性骨髄性白血病、慢性リンパ性白血病、絨毛腫瘍、小児の固形がん。

2. 手術だけで治療するがん

乳がん、子宮がん、直腸がん、甲状腺がん、精のうがん、前立腺がん。

3. 抗がん剤で延命効果があるがん

乳がん、卵巣がんの再発、乳がんの肺(肝)移転、卵巣がんの腹膜移転。

4. 短期間しか延命しない固形がん

肺がん(限局性の小細胞がんを除く)、胃がん、大腸がん、咽頭がん、喉頭がん、食道がん、腎臓がん、肝臓がん、再発、移転した子宮がん、甲状腺がん。

5. どんな抗がん剤治療でも早期に死に至るがん

膵臓がん、胆のうがん、胆管がん、胸膜中皮腫、悪性線維性組織球腫、成人の肉腫(消化管以外)。

●寝不足、過労、ストレスが最大原因

がん、膠原病の患者さんはその体質を持って生まれてくるのですが、その体質を持って生まれてきても、必ずその病気が発病するわけではありません。どこかに引き金があって、その引き金を引いた人にだけ、病気は発病するのです。その引き金とは、寝不足、過労、ストレスです。この3つが重なれば、必ずと言っていいほど、潜んでいた体質が表にで発病することになるようです。ですから、病気にならない最善の方法は、食べたい時に食べ、寝たい時に寝て、ボケーとしておくことが、最高の治療法なのです。

以上。